

Title	事業多角化の成功要因-人材サービス業界をモデルとして-
Sub Title	
Author	今村, 竜夫(Imamura, Tatsuo) 渡辺, 直登
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2007
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2007年度経営学 第2201号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2201">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2201</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論 文 要 旨

所属ゼミ	渡辺研究会	学籍番号	80630082	氏名	今村竜夫
(論文題名)					
事業多角化の成功要因 — 人材サービス業界をモデルとして —					
(内容の要旨)					
<p>本研究では、既存の多角化戦略論が、歴史が浅く発展途上の産業にも該当するかどうかを、人材サービス業界をモデルとして検証している。</p> <p>日本の人材サービス業界は、1960年代に米国から上陸した人材派遣事業を中心に成長を遂げ、現在の市場規模は約4兆円に達している。同業界は引き続き成長することが見込まれているが、業界を取り巻く競争環境は厳しく、生き残るためには厳しい競争に勝ち残る必要がある。</p> <p>多角化に関する先行研究には「ゼネラル・マネジメント学派」と「シナジー学派」という2つの潮流がある。ゼネラル・マネジメント学派は企業レベルのスキルに焦点を当てているのに対し、シナジー学派は本業の実務能力に焦点を当て、シナジーの発揮を重視している。また、この2つを組み合わせ、親会社独自のスキルに焦点を当てた理論はペアレンティング理論として発表されている。</p> <p>研究1の結果、多角化している人材サービス会社は、事業選定に関してこれらの理論に合致していると言えることができるが、関連多角化を展開している企業であっても、数値に見える形のシナジー効果が発揮できていないことが確認された。</p> <p>また、研究2では人材サービス会社の経営者や社員へのインタビュー調査を行い、この原因が、経営者の意識、新規事業運営者の意識、業界の成長、事業間のコンフリクト、法規制の存在、M&amp;Aといった要因によって、シナジー発揮のためのマネジメント・コントロールを実行していないことであることを発見した。</p> <p>こうした研究結果に基づき、今後多角化を図る人材サービス会社に対して『キャリア形成の生涯パートナー』というコンセプトに基づくビジネスモデルを提案するとともに、研究結果が、成長段階にある他業界の多角化企業にも該当する可能性を示唆し、シナジー発揮におけるマネジメント・コントロールの必要性と早期取り組みの重要性を示した。</p>					